

「発見！絶妙な神の配慮」(2025. 11. 16)

水はますます勢いを加えて地上にみなぎり、およそ天の下にある高い山はすべて覆われた。

水は勢いを増して更にその上十五アンマに達し、山々を覆った。(創7:19-20)

11/4の朝、いつものように聖書日課にしたがって創世記7:6~22を読んで黙想した。すると上掲の御言葉が浮かんできた。大洪水は高い山々を覆い、その水はその山々のさらにその上15アンマに達したという。それがどうした？なんで聖書はこのような情報を記しているのだろうか？これまで聖書を読んできて、初めてこんな疑問を抱いた。15アンマといえば、あれ？ノアの箱舟は高さが30アンマだった！ちょうど半分である。

想像力が湧いてきた。もしかして箱舟が山の頂に当たって座礁しないためか？箱舟には動物がいっぱい載っていて重かったに違いない。当然箱舟の下部は海に沈む。箱舟は3層構造だから下の一層目辺りまでは沈むのではないか？もしそうだとすると10アンマ沈むことになる。でも山の頂は水面の15アンマ下にあるから、当たって座礁することはない。神様は洪水の量も考えておられたのだ。初めて気づいた！神様の絶妙な配慮、すごい！

9月下旬に休暇を戴いて、シンシナティにある「アーク・エンカウンター」を訪れ、実物大の「ノアの箱舟」を体験してきた。神様がノアに造るよう命じた箱舟のサイズは、長さ300アンマ、幅50アンマ、高さ30アンマであった。実はこの30:5:3の比率は、タンカーが海の上で最も安定した状態を保つので、タンカーの黄金比と言われている。ここにも神様の絶妙な配慮がある。その箱船の中にノアがいた。一緒に写真を撮らせてもらった。私も神様の絶妙な配慮の中、箱舟のアドベンチャーを体験している気分になった。



ノアの箱舟はノア家族8人と全ての種類の動物を大洪水から救い出し、新しい世界に導いた。教会は現代の救いの箱舟だ。箱舟の船長はイエス様。だから、大洪水があっても大丈夫。「黙れ、静まれ」と凧(なぎ)にして下さる。横手教会の私達も、困難な中であっても神様の絶妙な配慮を信じ、新しい世界を望み、ここに多くの方々を招くよう努めたい。